

作物統計調査
令和7年産水陸稲の収穫量

令和7年産主食用米の収穫量は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで718万1千トン（前年に比べ66万2千トンの増加）。ふるい目幅1.70mmベースで746万8千トン（前年に比べ67万6千トンの増加）。収穫量は平成29年以来最大の見込み。

【調査結果の概要】

- 1 令和7年産の水稲の生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm～1.90mm）ベースの収穫量（主食用）※1は718万1,000 tで、前年産に比べ66万2,000 t増加と見込まれる。

※1 生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm～1.90mm）ベースのふるい上米

これは、

- ① 作付面積（主食用）が、新規需要米や備蓄米等からの転換等があったため、136万7,000haで、前年産に比べ10万8,000haの増加となったことに加え、
- ② 全国の10 a 当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、一部地域で5月上旬から6月中旬にかけての気温や日照時間が前年を下回る地域があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれたため、526kgで、前年産に比べ7 kg増加と見込まれるためである。

- 2 全国の作況単収指数は102と見込まれる。各都道府県の作況単収指数は、統計表のとおりである。

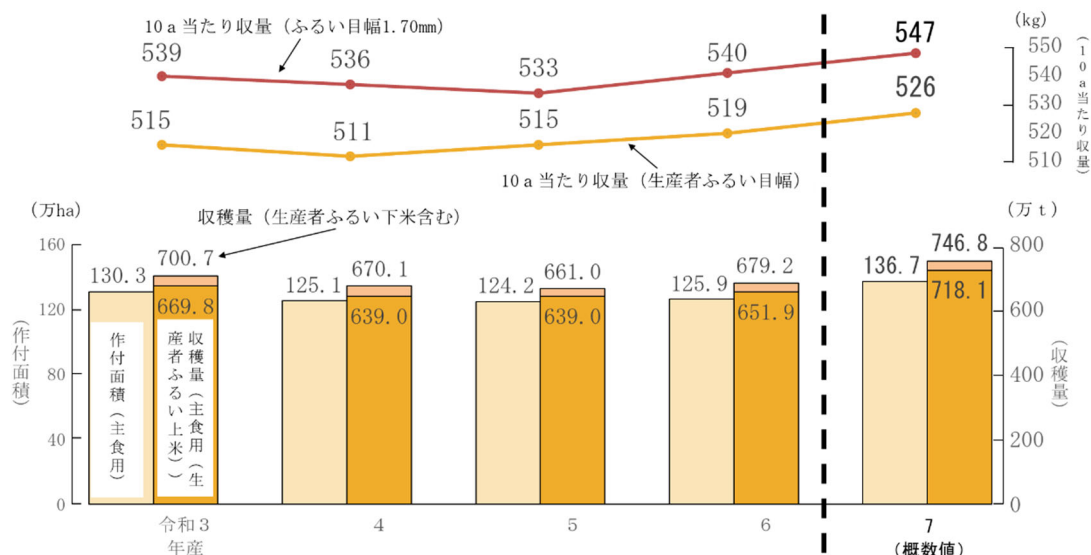
（参考）令和7年産の水稲のふるい目幅1.70mmベースの収穫量（主食用）※2は746万8,000 tで、前年産に比べ67万6,000 t増加と見込まれる。

※2 生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm～1.90mm）ベースのふるい下米を含む。

以上の内容について、10月25日現在の公表値から変更なし。

- 令和7年産調査から生産者の実感に合うよう、生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm～1.90mm）で収穫量を公表することとし、前年産まで収穫量（主食用）として公表していたふるい目幅1.70mmの収穫量（主食用）は、令和7年産以降、収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））と表記することとした。

図1 水稲の作付面積（主食用）、10 a 当たり収量及び収穫量の推移（全国）



- 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である（11ページの【参考1】参照）。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である。
- 沖縄県については、一部収穫を終えていないため、収穫の状況によっては今後変動することがある。確定した数値はホームページに掲載（令和8年2月予定）する。

◎ 累年データ

水稻の年次別推移（全国）

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用している ふるい目幅で選別			ふるい目幅 1.70mmで選別			作況 単収 指数
		10a 当たり 収 量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者 ふるい上米))	10a 当たり 収 量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者 ふるい下米含む))	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	
平成7年産	509	94	...	103
8	525	103	...	106
9	515	98	...	100
10	499	97	...	97
11	515	103	...	100
12	537	104	...	105
13	532	99	...	103
14	527	99	...	101
15	469	89	...	89
16	514	110	...	98
17	532	104	...	102
18	507	95	...	97
19	522	103	...	101
20	1,596,000	543	104	8,658,000	106
21	1,592,000	522	96	8,309,000	100
22	1,580,000	522	100	8,239,000	99
23	1,526,000	533	102	8,133,000	102
24	1,524,000	540	101	8,210,000	103
25	1,522,000	539	100	8,182,000	101
26	1,474,000	536	99	7,882,000	101
27	1,406,000	515	nc	7,228,000	531	99	7,442,000	99
28	1,381,000	531	103	7,322,000	544	102	7,496,000	101
29	1,370,000	517	97	7,077,000	534	98	7,306,000	99
30	1,386,000	511	99	7,081,000	529	99	7,327,000	99
令和元	1,379,000	514	101	7,061,000	528	100	7,261,000	99
2	1,366,000	508	99	6,906,000	531	101	7,226,000	99
3	1,303,000	515	101	6,698,000	539	102	7,007,000	100
4	1,251,000	511	99	6,390,000	536	99	6,701,000	100
5	1,242,000	515	101	6,390,000	533	99	6,610,000	101
6	1,259,000	519	101	6,519,000	540	101	6,792,000	101
7 (概数値)	1,367,000	526	101	7,181,000	547	101	7,468,000	102

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 作況単収指数は、10a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a 当たり収量の比率である。また、平成7年産から令和元年産までの作況単収指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、令和2年産以降の作況単収指数は生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した数値である。

図2 令和7年産水稻の作況標本筆の10a当たり収量の分布状況（全国）
（生産者が使用しているふり目幅ベース）

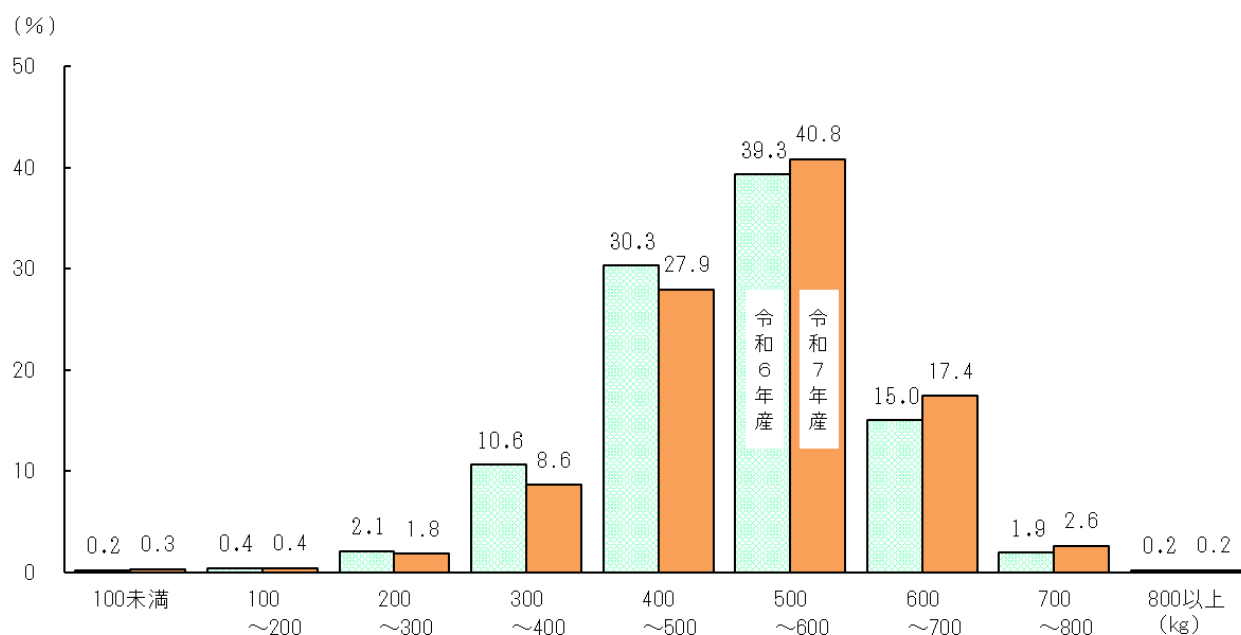


図3 令和7年産水稻の作況標本筆の10a当たり収量の前年差の分布状況（全国）
（生産者が使用しているふり目幅ベース）

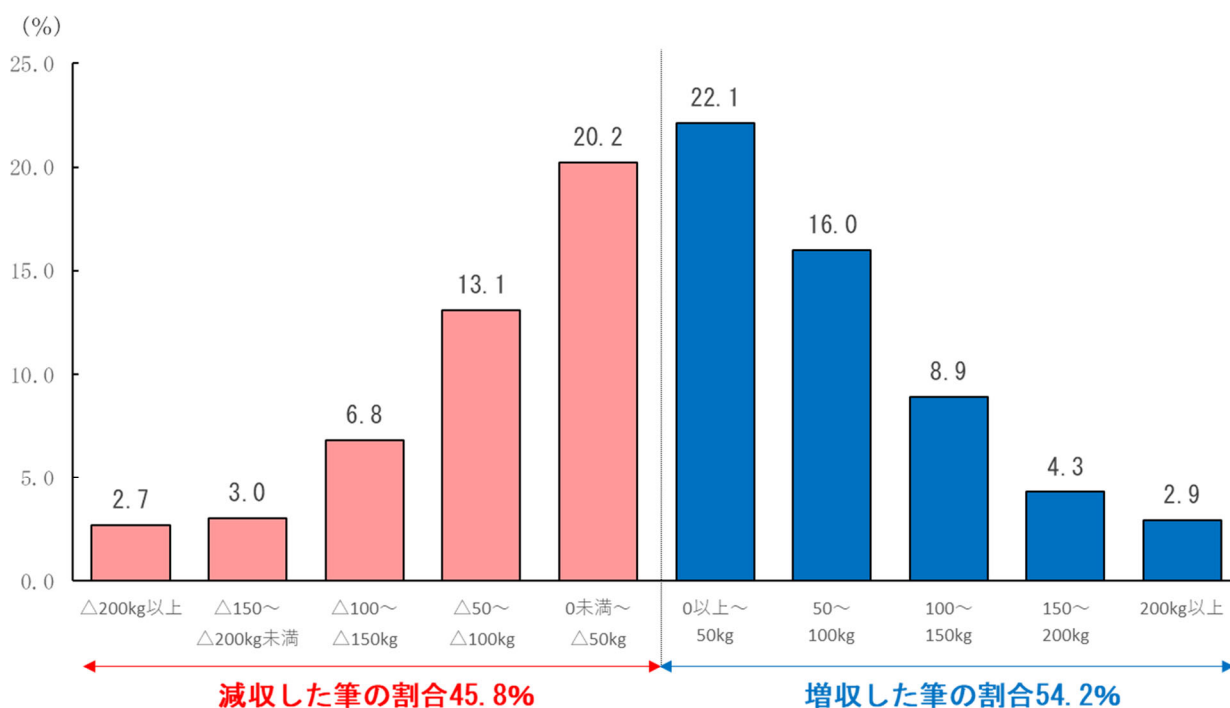


表 1 令和 7 年産水稻の玄米品位の状況（全国）

単位：%				
区 分	白未熟粒	死米	胴割粒	着色粒
重量割合	3.7	0.3	1.2	0.2

- 注：1 水稻作況標本（基準）筆の刈取試料（生産者が使用しているふるい目幅で選別した玄米）を、筆ごとに穀粒判別器を用いて品位分析を行い、その結果を集計したものであり、調製のうえ販売される玄米の品位とは異なる。
- 2 白未熟粒は白色不透明な部分の大きさが粒平面の 1 / 2 以上のものである粒、死米は粉状質で光沢がないものが 2 / 3 以上を占める粒、胴割粒は粒平面に横一条の亀裂がすっきり通っている粒、着色粒は着色部分の大きさが直径 1 mm 以上かつ粒表面の 2 / 3 以下のものである粒をいう。
- 3 品位分析が完了した筆の結果であり、次回公表において数値が変動することがある。

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10 a 当たり収量及び収穫量（主食用）

生産者等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別 10 a 当たり収量及び収穫量（主食用）の概数値を示すと次のとおりである。

本調査では、農産物規格規程に定める三等以上の玄米の重量を把握しており、未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

表 2 ふるい目幅別重量分布状況の推移（全国）

単位：%							
年 産	計	1.70mm 以上 1.75mm 未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
令和 2 年産	100.0	0.7	1.4	1.9	2.9	14.4	78.7
3	100.0	0.8	1.4	1.8	2.8	14.7	78.5
4	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	14.9	77.9
5	100.0	0.6	1.0	1.3	2.1	10.2	84.8
6	100.0	0.7	1.2	1.5	2.6	11.9	82.1
7（概数値）	100.0	0.7	1.2	1.5	2.6	12.0	82.0
対前年差(ポイント)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	△ 0.1

注：ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅毎の玄米重量の割合である（以下同じ。）。

表3 ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（全国）

年 産		単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
令和2年産	10a当たり収量	kg	531	527	520	510	494	418
	収穫量（主食用）	t	7,226,000	7,175,000	7,074,000	6,937,000	6,727,000	5,687,000
3	10a当たり収量	kg	539	535	527	517	502	423
	収穫量（主食用）	t	7,007,000	6,951,000	6,853,000	6,727,000	6,531,000	5,500,000
4	10a当たり収量	kg	536	531	523	513	497	418
	収穫量（主食用）	t	6,701,000	6,641,000	6,540,000	6,413,000	6,219,000	5,220,000
5	10a当たり収量	kg	533	530	524	518	506	452
	収穫量（主食用）	t	6,610,000	6,570,000	6,504,000	6,418,000	6,280,000	5,605,000
6	10a当たり収量	kg	540	536	530	522	508	443
	収穫量（主食用）	t	6,792,000	6,744,000	6,663,000	6,561,000	6,384,000	5,576,000
7 （概数値）	10a当たり収量	kg	547	543	537	529	515	449
	収穫量（主食用）	t	7,468,000	7,415,000	7,328,000	7,222,000	7,034,000	6,134,000
	対前年比 （収穫量（主食用））	%	110	110	110	110	110	110

【調査結果】

1 水稲

- (1) 令和7年産水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は136万7,000haで、前年産に比べ10万8,000ha増加となった。これは、新規需要米や備蓄米等からの転換等があったためである。
- (2) 全国の10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、526kg（前年産に比べ+7kg）と見込まれる。
- これは、一部地域で5月上旬から6月中旬にかけての気温や日照時間が前年を下回る地域があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれたためである。
- これを地域別にみると、以下のとおりである。
- 北海道においては、6月上旬までの日照不足により全もみ数がやや少なくなったこと等から、549kg（前年産に比べ△13kg）となった。
- 北海道と沖縄県を除く各地域では、6月中旬までの低温、日照不足により、東北、関東等では穂数が少ない地域がみられたものの、6月下旬以降おおむね天候に恵まれ、多くの地域で全もみ数が前年以上に確保されたことから、東北は557kg（同+1kg）、北陸は517kg（同+7kg）、関東・東山は524kg（同△5kg）、東海は490kg（同+16kg）となり、近畿以西では、10月上・中旬の天候に恵まれ、粒の肥大・充実が促進されたこと等から、近畿は507kg（同+19kg）、中国は519kg（同+21kg）、四国は495kg（同+24kg）、九州は492kg（同+26kg）となった。
- 沖縄県は、田植期以降、4月下旬まで低温で推移したこと等から、310kg（同△9kg）と見込まれる。
- (3) 主食用作付面積に10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は718万1,000t（前年産に比べ66万2,000t増加）と見込まれる。
- (4) 全国の作況単収指数は102と見込まれる。
- (5) 水稲作況標本（基準）筆の刈取試料（生産者が使用しているふるい目幅で選別した玄米）の玄米品位の状況は、白未熟粒3.7%、死米0.3%、胴割粒1.2%、着色粒0.2%と見込まれる（表8参照）。

2 陸稲

令和7年産陸稲（子実用）の作付面積は334ha（前年産に比べ14ha増加）で、10a当たり収量は226kg（同30kg減少）と見込まれ、収穫量は754t（同66t減少）と見込まれる。

参考

ふるい目幅1.70mmベースの収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は746万8,000t（前年産に比べ67万6,000t増加）と見込まれる。

○ 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a当たり収量の比率である。

表4 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び収穫量（全国農業地域別）

全 国 農業地域	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別				
	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり収量		収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））		
				実 数 ②	前年産との 比較	実 数 ③＝①×②	前年産との比較	
		対 差	対 比				対 差	対 比
	ha	ha	%	kg	%	t	t	%
全 国	1,367,000	108,000	109	526	101	7,181,000	662,000	110
北 海 道	90,400	6,700	108	549	98	496,300	25,900	106
東 北	361,100	41,300	113	557	100	2,012,000	236,000	113
北 陸	187,700	11,900	107	517	101	970,300	74,300	108
関 東・東 山	260,700	25,700	111	524	99	1,366,000	122,000	110
東 海	87,000	3,600	104	490	103	425,700	30,100	108
近 畿	93,500	2,900	103	507	104	473,900	31,900	107
中 国	92,700	2,300	103	519	104	482,100	32,100	107
四 国	43,700	1,400	103	495	105	215,800	16,400	108
九 州	149,500	11,300	108	492	106	736,900	93,700	115
沖 縄	597	40	107	310	97	1,850	70	104

全 国 農 業 地 域	ふるい目幅1.70mmで選別					作 況 単 収 指 数
	10 a 当たり収量		収 穫 量 (主食用(生産者ふるい下米含む))			
	実 数 ④	前年産との 比較	実 数 ⑤＝①×④	前年産との比較		
		対 比		対 差	対 比	
	kg	%	t	t	%	
全 国	547	101	7,468,000	676,000	110	102
北 海 道	574	97	518,900	23,400	105	98
東 北	583	100	2,103,000	238,000	113	101
北 陸	541	101	1,015,000	76,200	108	101
関 東・東 山	541	99	1,411,000	129,000	110	100
東 海	505	103	439,000	31,500	108	103
近 畿	527	104	492,700	33,100	107	105
中 国	538	105	499,400	36,400	108	105
四 国	505	105	220,000	16,400	108	106
九 州	513	105	767,400	91,400	114	106
沖 縄	313	96	1,870	50	103	99

- 注：1 作付面積（主食用）（①）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10 a 当たり収量（②）及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））（③）は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10 a 当たり収量（②）については、都道府県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 4 10 a 当たり収量（④）及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））（⑤）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 5 収穫量（主食用（生産者ふるい上米））（③）及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））（⑤）については、都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
- 6 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10 a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10 a 当たり収量の比率である。

表5 令和7年産ふるい目幅別重量分布状況（全国農業地域別）

単位：％

全国 農業地域	区 分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
全 国	重量割合	100.0	0.7	1.2	1.5	2.6	12.0	82.0
	前 年 値	100.0	0.7	1.2	1.5	2.6	11.9	82.1
	対前年差(ポイント)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	△ 0.1
北 海 道	重量割合	100.0	0.5	0.8	1.0	2.0	8.9	86.8
	前 年 値	100.0	0.6	1.0	1.2	2.2	10.7	84.3
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.2	△ 1.8	2.5
東 北	重量割合	100.0	0.5	1.0	1.2	2.2	10.9	84.2
	前 年 値	100.0	0.5	1.1	1.3	2.2	10.5	84.4
	対前年差(ポイント)	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.1	0.0	0.4	△ 0.2
北 陸	重量割合	100.0	0.8	1.1	1.4	2.6	12.4	81.7
	前 年 値	100.0	0.9	1.3	1.5	2.8	13.2	80.3
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.8	1.4
関東・東山	重量割合	100.0	0.8	1.5	1.9	3.1	15.7	77.0
	前 年 値	100.0	0.8	1.2	1.6	2.6	13.5	80.3
	対前年差(ポイント)	0.0	0.0	0.3	0.3	0.5	2.2	△ 3.3
東 海	重量割合	100.0	0.8	1.3	1.8	2.8	11.4	81.9
	前 年 値	100.0	0.6	1.1	1.5	2.1	8.9	85.8
	対前年差(ポイント)	0.0	0.2	0.2	0.3	0.7	2.5	△ 3.9
近 畿	重量割合	100.0	0.9	1.3	1.5	2.4	10.4	83.5
	前 年 値	100.0	0.8	1.1	1.4	2.3	10.1	84.3
	対前年差(ポイント)	0.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3	△ 0.8
中 国	重量割合	100.0	0.8	1.2	1.4	2.1	9.5	85.0
	前 年 値	100.0	0.5	0.9	1.1	1.8	8.5	87.2
	対前年差(ポイント)	0.0	0.3	0.3	0.3	0.3	1.0	△ 2.2
四 国	重量割合	100.0	0.8	1.2	1.7	2.4	10.8	83.1
	前 年 値	100.0	0.8	1.1	1.5	2.4	11.6	82.6
	対前年差(ポイント)	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	△ 0.8	0.5
九 州	重量割合	100.0	1.0	1.6	1.9	3.3	13.3	78.9
	前 年 値	100.0	1.1	2.0	2.5	4.4	17.7	72.3
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.6	△ 1.1	△ 4.4	6.6
沖 縄	重量割合	100.0	0.4	1.0	1.2	1.9	9.2	86.3
	前 年 値	100.0	0.4	0.9	1.2	2.6	12.8	82.1
	対前年差(ポイント)	0.0	0.0	0.1	0.0	△ 0.7	△ 3.6	4.2

注：刈取り・調製が終了した作況標本筆等のデータにより取りまとめたものである。

表6 令和7年産ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（主食用）
（全国農業地域別）

全 国 農業地域	区 分	単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
全 国	10a 当たり収量	kg	547	543	537	529	515	449
	収穫量（主食用）	t	7,468,000	7,415,000	7,328,000	7,222,000	7,034,000	6,134,000
北 海 道	10a 当たり収量	kg	574	571	566	560	549	498
	収穫量（主食用）	t	518,900	516,300	512,200	507,000	496,300	449,600
東 北	10a 当たり収量	kg	583	580	574	567	555	491
	収穫量（主食用）	t	2,103,000	2,094,000	2,073,000	2,048,000	2,003,000	1,774,000
北 陸	10a 当たり収量	kg	541	537	531	523	509	443
	収穫量（主食用）	t	1,015,000	1,006,000	994,900	981,300	956,000	831,100
関東・東山	10a 当たり収量	kg	541	537	530	520	503	418
	収穫量（主食用）	t	1,411,000	1,399,000	1,381,000	1,355,000	1,311,000	1,088,000
東 海	10a 当たり収量	kg	505	501	494	488	474	416
	収穫量（主食用）	t	439,000	435,500	429,800	424,200	411,800	361,200
近 畿	10a 当たり収量	kg	527	522	516	508	497	442
	収穫量（主食用）	t	492,700	488,300	482,400	474,600	464,800	413,300
中 国	10a 当たり収量	kg	538	534	527	521	510	459
	収穫量（主食用）	t	499,400	495,300	489,400	483,600	473,400	425,500
四 国	10a 当たり収量	kg	505	501	495	487	475	421
	収穫量（主食用）	t	220,000	218,300	215,800	212,200	207,100	183,300
九 州	10a 当たり収量	kg	513	508	500	490	474	406
	収穫量（主食用）	t	767,400	760,000	748,000	733,800	708,400	606,100
沖 縄	10a 当たり収量	kg	313	312	310	305	299	271
	収穫量（主食用）	t	1,870	1,860	1,850	1,830	1,790	1,620

表7 令和7年産水稻の作況標本筆の10a当たり収量の分布状況
(全国農業地域別)

単位：％

全 国 農 業 地 域	区 分	計	100kg 未満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700 ～800	800kg 以上
全 国	筆数割合	100.0	0.3	0.4	1.8	8.6	27.9	40.8	17.4	2.6	0.2
	前年値	100.0	0.2	0.4	2.1	10.6	30.3	39.3	15.0	1.9	0.2
	対前年差(ポイント)	0.0	0.1	0.0	△ 0.3	△ 2.0	△ 2.4	1.5	2.4	0.7	0.0
北 海 道	筆数割合	100.0	－	－	0.6	3.3	25.6	45.6	22.9	1.8	0.2
	前年値	100.0	－	－	0.2	2.2	21.8	51.1	22.0	2.7	－
	対前年差(ポイント)	0.0	－	－	0.4	1.1	3.8	△ 5.5	0.9	△ 0.9	0.2
東 北	筆数割合	100.0	0.1	0.4	0.7	4.3	20.4	40.7	26.7	6.3	0.4
	前年値	100.0	0.1	0.3	1.1	3.8	15.7	48.0	27.1	3.8	0.1
	対前年差(ポイント)	0.0	0.0	0.1	△ 0.4	0.5	4.7	△ 7.3	△ 0.4	2.5	0.3
北 陸	筆数割合	100.0	0.1	0.2	2.3	8.6	30.2	43.5	14.2	0.8	0.1
	前年値	100.0	－	0.3	1.5	9.2	33.2	44.4	11.3	0.1	－
	対前年差(ポイント)	0.0	0.1	△ 0.1	0.8	△ 0.6	△ 3.0	△ 0.9	2.9	0.7	0.1
関 東 ・ 東 山	筆数割合	100.0	0.2	0.6	1.1	9.1	26.6	38.3	19.9	4.0	0.2
	前年値	100.0	－	0.4	1.3	7.7	27.9	39.5	19.4	3.3	0.5
	対前年差(ポイント)	0.0	0.2	0.2	△ 0.2	1.4	△ 1.3	△ 1.2	0.5	0.7	△ 0.3
東 海	筆数割合	100.0	－	0.5	4.0	12.7	31.3	41.4	9.3	0.8	－
	前年値	100.0	－	0.6	3.1	16.3	39.6	32.1	7.7	0.6	－
	対前年差(ポイント)	0.0	－	△ 0.1	0.9	△ 3.6	△ 8.3	9.3	1.6	0.2	－
近 畿	筆数割合	100.0	0.4	0.3	1.9	10.0	31.1	38.5	16.7	1.1	－
	前年値	100.0	0.3	0.3	1.8	13.0	37.4	36.5	9.3	1.1	0.3
	対前年差(ポイント)	0.0	0.1	0.0	0.1	△ 3.0	△ 6.3	2.0	7.4	0.0	△ 0.3
中 国	筆数割合	100.0	0.3	0.5	1.9	10.2	24.7	40.9	18.6	2.6	0.3
	前年値	100.0	0.7	1.1	4.6	11.8	27.8	36.2	14.8	2.5	0.5
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 0.6	△ 2.7	△ 1.6	△ 3.1	4.7	3.8	0.1	△ 0.2
四 国	筆数割合	100.0	－	0.7	3.3	13.9	31.6	36.1	12.9	1.5	－
	前年値	100.0	－	0.4	3.7	18.6	38.9	29.2	9.0	0.2	－
	対前年差(ポイント)	0.0	－	0.3	△ 0.4	△ 4.7	△ 7.3	6.9	3.9	1.3	－
九 州	筆数割合	100.0	1.3	0.6	2.1	9.6	34.7	42.8	8.7	0.2	－
	前年値	100.0	0.5	0.5	2.9	18.0	41.6	31.1	5.0	0.4	－
	対前年差(ポイント)	0.0	0.8	0.1	△ 0.8	△ 8.4	△ 6.9	11.7	3.7	△ 0.2	－

注：1 10a 当たり収量は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 沖縄については、水稻作況標本筆を設置していないことから、調査結果を表記していない。

表8 令和7年産水稻の玄米品位の状況 (全国農業地域別)

単位：％

全 国 農 業 地 域	区 分	白未熟粒	死米	胴割粒	着色粒
全 国	重量割合	3.7	0.3	1.2	0.2
北 海 道	重量割合	2.9	0.3	0.3	0.2
東 北	重量割合	1.7	0.1	1.2	0.2
北 陸	重量割合	3.0	0.2	1.2	0.1
関 東 ・ 東 山	重量割合	4.7	0.4	1.2	0.2
東 海	重量割合	7.0	0.7	1.9	0.4
近 畿	重量割合	5.3	0.4	1.2	0.2
中 国	重量割合	4.1	0.3	0.7	0.2
四 国	重量割合	5.5	0.6	0.6	0.3
九 州	重量割合	4.8	0.3	1.4	0.2
沖 縄	重量割合	6.3	0.2	1.7	0.2

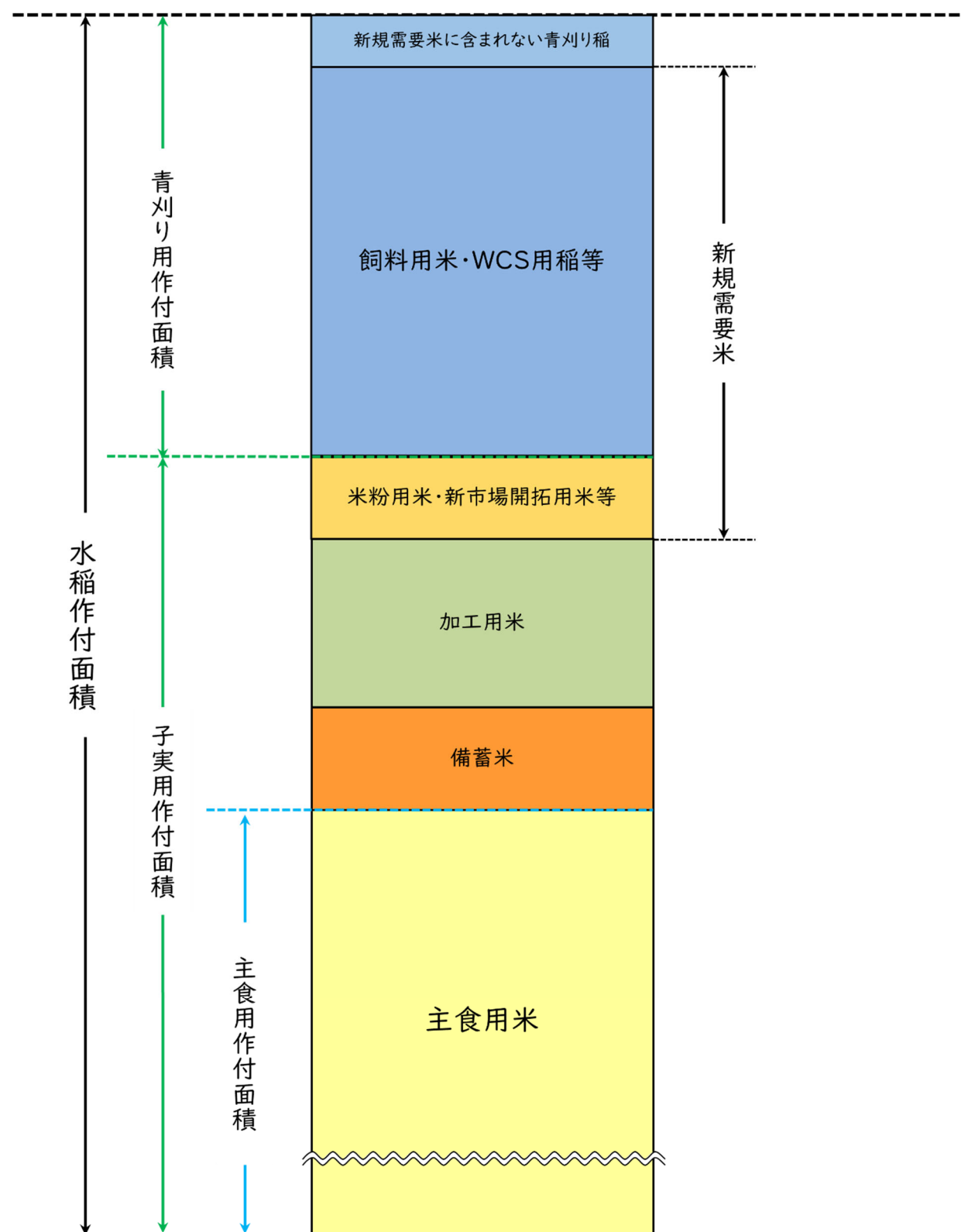
注：1 水稻作況標本（基準）筆の刈取試料（生産者が使用しているふるい目幅で選別した玄米）を、筆ごとに穀粒判別器を用いて品位分析を行い、その結果を集計したものであり、調製のうえ販売される玄米の品位とは異なる。

2 白未熟粒は白色不透明な部分の大きさが粒平面の1／2以上のものである粒、死米は粉状質で光沢がないものが2／3以上を占める粒、胴割粒は粒平面に横一条の亀裂がすっきり通っている粒、着色粒は着色部分の大きさが直径1mm以上かつ粒表面の2／3以下のものである粒をいう。

3 品位分析が完了した筆の結果であり、次回公表において数値が変動することがある。

【参考 1】

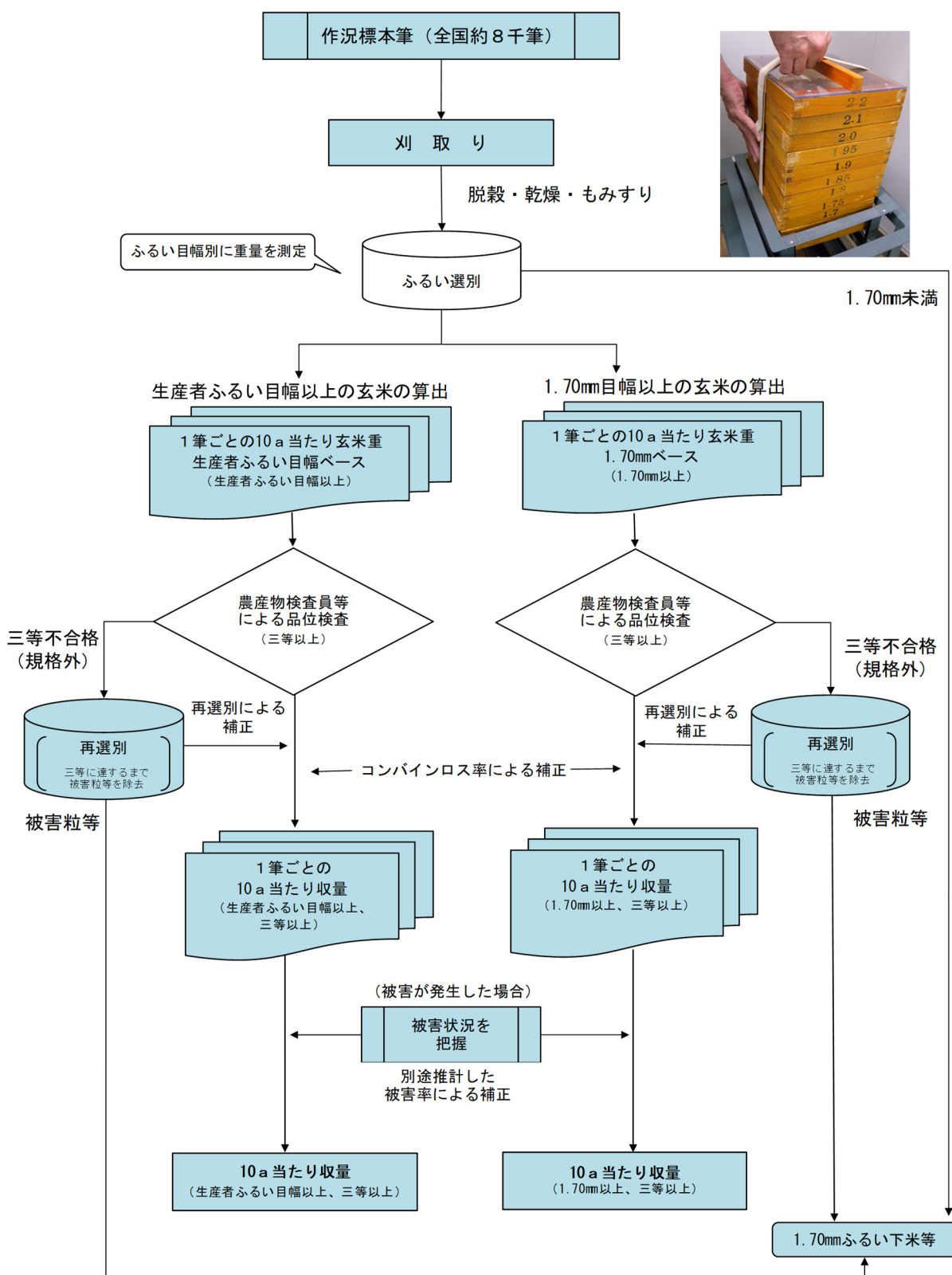
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

刈取り調査における 10 a 当たり収量の算出方法

作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位以上に相当するよう選別を行い、その重さを計測し、コンバインロス率及び被害率による補正を行い 10 a 当たり収量を算出している（下図参照）。

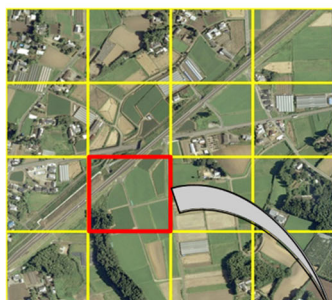


【参考3】

作況標本^{ふで}筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）^{ふで}は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約8千筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



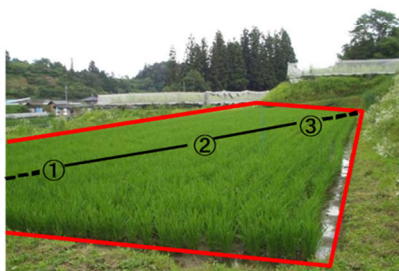
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約8千筆）

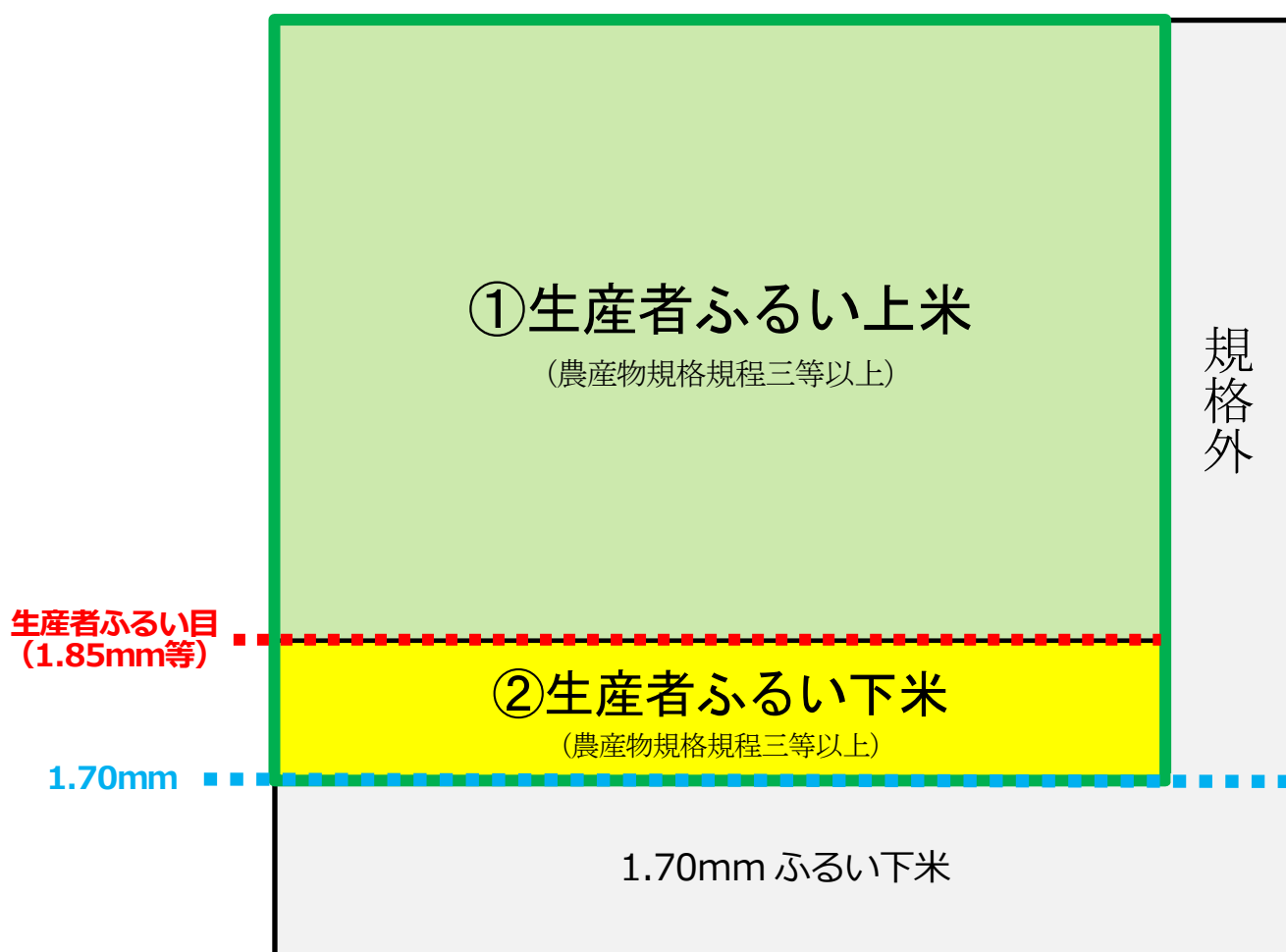


- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【参考 4】

水稻収穫量調査の収穫量イメージ

- ① 収穫量（生産者ふるい上米）は、都道府県ごとに最も使用されている生産者ふるい目（1.80mm～1.90mm）以上で農産物規格規程三等以上の収穫量を対象としている。
- ② 収穫量（生産者ふるい下米）は、ふるい目幅 1.70mm 以上、農産物規格規程三等以上で生産者ふるい目幅未満の収穫量を対象としている。
- ③ 収穫量（生産者ふるい下米含む）は、①と②をあわせた収穫量（緑枠）を対象としている。



【統計表】

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files/data?sinfid=000040321387&ext=xls>

【調査の概要】

・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定め
ることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における品目ごとの生産量や作付面積等のKPIの設定及び
検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 本資料は農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産
量、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、か
んしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y5

- ・ 沖縄県の水稲については、一部収穫を終えていないため、収穫の状況によっては今後作
柄が変動することがあります。また、陸稲の数値は概数値です。これを含め、確定した詳
細な数値は、ホームページに掲載（令和8年2月予定）します。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関
する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予察事
業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測
の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行って
いる作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

お問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3682

（直通）03-3502-5687

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 統計広報推進班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3589

（直通）03-6744-2037



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



SAFF

データの力で。

農林水産統計
Statistics of Agriculture,
Forestry and Fisheries